

# 1月の衛研検査情報

～トピックス～

## 横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 —平成29年5～10月—

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症ウイルスサーベイランス事業の一環として、主に市内公園などで蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカ熱、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎などがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります。またデング熱は、平成26年8月に、都内公園を推定感染地とした国内発生がありました。そのため、感染症発生時対策として、平常時より地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことが必要です。

平成29年は電池式ライトトラップ（CDC型：ドライアイス併用）を用いた蚊成虫捕獲調査を市内25か所（6か所は各12回、19か所は各10回）で行いました。また、山下公園（中区）の3地点において、ヤブカ属の捕獲を目的として捕虫網を用いた人囀（ひとおとり）法（8分間スウィーピング法）を全12回行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫についてはフラビウイルス属（デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎）、チクングニアウイルスの遺伝子検査を行いました。

**主な結果** ライトトラップ法により捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、5属10種10,685個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ7,871個体（73.7%）でした。次いで、アカイエカ群が1,831個体（17.1%）、オオクロヤブカが270個体（2.5%）、ヤマトヤブカが262個体（2.5%）、キンパラナガハシカが248個体（2.3%）、コガタアカイエカが103個体（1.0%）捕獲されました。

人囀（ひとおとり）法により捕獲されたヒトスジシマカの雌成虫は143個体、雄成虫は144個体、合計287個体でした。ヒトスジシマカの捕獲数は、6月から7月は10個体以下と少数でしたが、8月より増加し、9月6日に74個体、9月20日に59個体、10月18日に58個体と多く捕獲されました。

雌成虫について実施した蚊媒介感染症ウイルス遺伝子検査は、全て陰性でした。

本編には、コラム「蚊に刺されるとかゆ～くなるのはどうして？」も掲載しています。

## 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページでは、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報などを提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



**主な結果** 平成29年12月は、大麻（マリファナ）、クロストリジウム-ディフィシル感染症、水痘（水疱瘡）・带状疱疹、インフルエンザワクチンに関するページのアクセスが多く見られました。総件数は187,567件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページをご覧ください

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査などの結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。